



GEDA2018 パネルディスカッション記録集

ジェネリック医薬品普及 80%時代を見据えて

— 今後の課題と方策を考える —

NPO 法人ジェネリック医薬品協議会

## 本書について

本書はNPO 法人ジェネリック医薬品協議会(略称:GEDA)が2018年5月24日(木)に東京の学士会館で主催したパネルディスカッションでの各パネリストの講演と討論の内容を元に GEDA が各発言者の校閲を経て作成したものである。パネルディスカッションの概要は以下のとおりである。

テーマ： ジェネリック医薬品普及 80%時代を見据えて

— 今後の課題と方策を考える —

趣旨：

ジェネリック医薬品(後発医薬品)の使用促進に関して、国は2014年6月の閣議決定において「2020年(平成32年)9月までに、後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるよう、更なる使用促進策を検討する。」と定め、各種の方策で努力がなされている。官報告示によると2017年9月段階ではジェネリック医薬品の数量シェアは65.8%に留まっているものの、普及促進の動きは止まらず早晩80%時代を迎えることが見込まれている。

本パネルディスカッションでは80%到達への課題とさらに80%到達後の課題をとらえ、行政、製薬企業、医療機関、保険薬局等の各界からパネリストとして参加をいただき講演と総合討論を実施し、我が国の医療におけるジェネリック医薬品の使用促進の方策を改めて討議する。

座長： NPO 法人ジェネリック医薬品協議会理事長 渡邊善照

パネリスト(敬称略, 講演順)：

東京理科大学経営学部教授 坂巻弘之  
横浜市立大学附属病院薬剤部副部長 小池博文  
一般社団法人足立区薬剤師会専務理事 平石裕  
東和薬品株式会社常務取締役 白川敏雄  
株式会社スギヤマ薬品人財本部教育部顧問 中田素生

この場を借りてパネルディスカッション当日だけでなく本書作成にもご協力をいただいたパネリストの先生方に謝意を表するとともに、本書がジェネリック医薬品使用促進の方策に関する議論に一石を投じることを願うものである。

2018年10月

NPO 法人ジェネリック医薬品協議会理事長 渡邊善照

## 目 次

座長挨拶	
NPO 法人ジェネリック医薬品協議会理事長 渡邊善照	3
パネリスト講演	
ジェネリック医薬品 80%への課題と 80%後のあるべき姿 東京理科大学経営学部教授 坂巻弘之	4
ジェネリック医薬品普及 80%時代を見据えて～病院薬剤師の視点から～ 横浜市立大学附属病院薬剤部副部長 小池博文	19
個人薬局の後発医薬品への取り組み 85 パーセント達成の問題点 一般社団法人足立区薬剤師会専務理事 平石裕	31
ジェネリック医薬品普及 80%時代を見据えて ―今後の課題と方策を考える― 東和薬品株式会社常務取締役 白川敏雄	36
高齢者の視点から 株式会社スギヤマ薬品人財本部教育部顧問 中田素生	52
総合討論	60

## ＜本文の表記について＞

- 「ジェネリック医薬品」または「後発医薬品」の表記を、「GE」としている場合があります。
- 各発言者の敬称等は省かせていただきました。

## 座長挨拶

### NPO 法人ジェネリック医薬品協議会理事長 渡邊善照

今日のご案内のとおり 80%を見据えてということで、いろいろな方面からご提言をいただいて、総合討論に入りたいというふうに思っております。もともと今回のパネルディスカッションを企画しました趣旨といいますのは、お手元の資料にもご案内しましたとおりであります。国のほうから近いうちに 80%に達するようにというような大号令でいろいろ動いているところですが、当然ながら 80%到達が最終目標ではございません。ジェネリック医薬品、これから特に話題になってまいりますバイオシミラーの面を含めまして、医療の場で医薬品にまつわるいろいろな課題は永遠に続くわけでございますので、そういうところを含めて今後の問題点と方策というものを一度討議してみたいということで企画いたしました。本日はご案内のとおり5名の先生にプレゼンテーションをしていただいて、そのあと総合討論というかたちにしたしたいと思います。各先生方のご講演のあと、簡単に1題か2題の質問をお受けしますが、大きな討論は後半にまとめて行いたいと思います。